

## 令和6年度第11回合同吟行会俳句大会入賞者一覧表

令和6年11月30日

特別賞																																
順位	岩沢 日月賞	茅ヶ崎俳句連盟	会長賞	入選	賞	秋山顧問	長島顧問	畠顧問	清水会長																							
17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1																
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃																
9	9	9	9	10	10	10	12	12	13	14	17	19	19	22	23	33																
2	7	3	6	2	7	1	8	4	6	2	8	3	7	4	8	2	10															
146	145	14	106	22	118	128	131	67	11	33	18	4	59	64	8	26	10															
秋風の奏てる耕筍顕彰碑	秘め心ぽんと弾けて鳳仙花	背に赤き斑を負ふ鯉の跳ねて冴ゆ	松籟は人恋ふ歌よ石蕗の花	俳友の亡き吟行や天高し	店先に郷里の名前柿並ぶ	分限者の軒に這い上ぐ薦かずら	高砂の明治の口マン敷松葉	吟行の一人ひとつの冬日差し	背の子へ一つおまけの蜜柑かな	散り敷ける千畳の銀杏広場かな	マンホール螺鈿の如く落葉嵌め	川の面に散りし木の葉にある個性	天に舞ひ地に遊びたる落葉かな	吟行や一期一會の日向ぼこ	余生とは知らぬ間に過ぐ返り花	書肆に寄る吟行の途次冬ぬくし	三老女海拔ゼロの日向ぼこ	銀杏散るひかりに重さあるごとく	実南天一粒ごとに発光す	裸木になりて大樹の力瘤	海鳴りの底より冬の立ち上がる	嫌な奴来れば目深の冬帽子	裸木や仁王のごとき力瘤	枯れてなほ蠟螂の目に鋭き光	冬青空をんなの覚悟らいてう碑	柿落葉ひとつひとつに風の音	樹間梳く冬の太陽らいでう碑	茶室へと誘ふ石蕗の花あかり	空に穴あけて飛び出す冬の雷	嫌な奴来れば目深の冬帽子	満を持し銀杏もみじの散華かな	銀杏散るひかりに重さあるごとく
吉住 夕香	田中 明子	瀧本 万忘	山崎 雅彦	伊藤あつ子	東 花梨	能勢 仲子	川島 健作	浜本 文子	大山 道子	秋山かつ子	坂口 和代	清水 吞舟	塚本 治彦	長堀 育甫	松田ます子	西岡 青波	島田美保子	岩田かつ子	塚本治彦	大山道子												

